

令和 3 年 5 月 26 日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K04461

研究課題名(和文) 認知行動モデルに基づく悪夢と合併精神疾患の心理治療法の解明

研究課題名(英文) Treatment based on cognitive behavioral model of nightmares and comorbidities

研究代表者

松田 英子 (Matsuda, Eiko)

東洋大学・社会学部・教授

研究者番号：30327233

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は悪夢症状に対する認知行動モデルに基づく心理療法の有効性を検証するために実施された。悪夢は様々な精神疾患と合併するため、心理学的支援のプロセスの中で扱う悪夢の内容にはバリエーションがある。そこで認知機能と夢の感覚、情動、記憶を含めた関係性に注目して、PTSD、統合失調症スペクトラム障害、自閉症スペクトラム障害、強迫性スペクトラム障害、認知症、アルコール依存症の悪夢について検証を行った。一連の研究結果から、認知機能障害の特徴を考慮して悪夢に関する認知行動療法の適用が有効であることが提案された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

睡眠障害は世界的に大きな健康問題の一つとなっている。悪夢障害に関する認知行動療法による効果研究には、薬理的治療を用いず副作用の少ない、悪夢への心理学的支援法の普及に貢献するといった社会的意義がある。また、悪夢の低減に有効な認知行動療法の技法のうちイメージを利用する方法が精神的健康を高める予防法としての利用可能性を提案できたことにも意義があると考えられる。悪夢症状と合併する精神疾患と夢の研究を通して、認知機能障害の特徴がどのような夢内容の差を生み出すかといった問いを心理学的に検討することに学術的意義がある。

研究成果の概要(英文)：A series of this research examined the effectiveness of psychotherapy based on a cognitive-behavioral model. There are variations in the content of nightmares to be treated within psychological supports depending on the comorbid mental disorders. Focusing on the relationship between cognitive function and dream sensation, emotion, and memory, we examine the nightmares of PTSD, schizophrenia spectrum disorder, autism spectrum disorder, obsessive spectrum disorder, dementia, and alcoholism. Based on a series of research results, it was suggested that the application of cognitive-behavioral therapy for nightmares would be more effective considering the characteristics of cognitive impairment.

研究分野：臨床心理学

キーワード：悪夢 認知行動療法 イメージ 認知機能障害 PTSD 認知症 統合失調症 自閉症スペクトラム障害

## 1. 研究開始当初の背景

世界的なメンタルヘルス諸問題のうち、睡眠障害の増加は特にアジア諸国において確認されており、とりわけ日本の状況は深刻である。欧米では不眠症の有病率は成人一般人口の9~15%、不眠症状を有する者は30~40%に上ると指摘する調査もある(Ohayon, 2002)。睡眠時随伴症としては、悪夢が心理面接の中でしばしば訴えられる。悪夢の生涯経験率は女性92%、男性85%と高く、月1回以上の悪夢は成人の6%、頻回悪夢の有病率は1~2%とも指摘されている(DSM-5:アメリカ精神医学会, 2013)。

睡眠障害大国・自殺大国日本において、睡眠の不調に対応するセルフコントロール法の習得や予防的施策の普及が必要である。特に重症の場合には、医療機関や相談機関につなげる必要性があるものの、薬物療法に対する抵抗感が一因となって、日本では睡眠障害による受診行動は極端に少ない。日本における睡眠の基礎研究は盛んであるが、睡眠の臨床研究は薬物療法が中心で、心理療法の支援の効果を検証した研究は少なかったが(宗澤ら, 2009)、不眠症の認知行動療法の研究成果も公開され始め、Edinger (2008)の翻訳、岡島・井上(2012)、短期的介入に絞った渡辺(2011)、岡島(2015)など、不眠症患者向けのセルフケア本の出版が近年相次いでおり、不眠症の心理学的支援法の効果検証と普及に関しては一定の成果を挙げている。

一方で、悪夢はその他の合併する精神疾患に随伴する症状として捉えられ、治療の対象としては悪夢そのものよりもその他の精神疾患の治療が主であり、悪夢の心理学的支援法の効果検証と普及の面では歴史が浅い(岡田・松田, 2017)。しかし、脳機能イメージング技術の進歩や、悪夢が自殺のリスクを高めるという指摘(Sjöström et al., 2007)、および重篤な悪夢を主訴とするPTSDへの対応などの理由から、悪夢研究が長足の進歩を遂げてきた。この10年間に認知行動論の観点からとらえた悪夢研究のレビュー論文が次々と公開されている(Levin & Nielsen, 2007; Spoomaker, 2008; Pace-Schott et al., 2015)。そしてアメリカ睡眠医学会による、メタ分析によって作成された悪夢の非薬物療法に関する治療ガイドラインが公開され、イメージリハーサルセラピーなどの認知行動療法の各技法が推奨されている(Aurora et al., 2010)。

しかし悪夢にも種類があり、現実生活でのストレスを反映した特発性の悪夢とPTSD性の悪夢では推奨技法とその効果も若干異なる。さらに、本研究では、悪夢の種類と合併精神疾患に着目し、レム睡眠中の情報処理過程を反映した夢に反映される、夢想起者の認知機能や情緒の状態から、認知機能の低下や機能不全の兆候をつかみ、悪夢と合併精神疾患のより良い心理療法を提案するものである。また認知科学的に覚醒時の思考と睡眠中の思考である夢とは連続性があり、悪夢を想起した日は相対的に不安が高く、精神的に不安定で、身体的愁訴を誘発しやすいことが指摘されており(Köthe & Pietrowsky, 2002)、その意味で本研究は予防精神医学、健康心理学的にも意義のある研究であると考えられよう。悪夢のタイプ別に、症状を軽減する効果的な方法の提案、悪化しないようなセルフコントロール法の啓蒙、受診行動を促す機会の提供等について、具体的に提案していきたい。

## 2. 研究の目的

現在の日本ではストレス社会を反映して、睡眠障害の拡がりが認められている。睡眠障害はうつ病や生活習慣病のリスク因子であるが、特に悪夢は自殺のリスクを高める因子として近年注目されている。研究代表者はこれまで不眠症や悪夢障害に関する認知行動療法の効果を検証し

てきた。悪夢は様々な精神疾患と合併するため、心理学的支援のプロセスの中で扱う悪夢の内容にはバリエーションがある。**悪夢障害と合併する精神疾患、例えば統合失調症、心的外傷後ストレス障害等の悪夢に関するより良い心理学的支援法**を探求していくことを目的とした。すなわち、**悪夢症状の生起メカニズムを認知行動モデルから捉え**、青年から高齢者までの、幅広い年齢層の悪夢の頻度や内容を調べることにより、**悪夢症状の分析から特に認知機能の低下や機能不全の兆候をつかみ**、合併疾患に対して認知行動療法を適用した効果を検証する。本研究は睡眠障害における**基礎研究と臨床研究の統合**を目指すものである。

### 3. 研究の方法

本研究は認知行動モデルに基づく心理学的支援法の悪夢症状に対する有効性を検証するために実施された。悪夢は様々な精神疾患と合併するため、心理学的支援のプロセスの中で扱う悪夢の内容にはバリエーションがある。そこで**認知機能と夢の感覚、情動、記憶を含めた関係性に注目して、PTSD、統合失調症スペクトラム障害、自閉症スペクトラム障害、強迫性スペクトラム障害、認知症、アルコール依存症等の悪夢**について、**調査研究と認知行動療法に基づく事例研究**を実施してきた。研究対象とした合併疾患の具体例とその実績は、Table 1の通りである。一連の研究により、悪夢から認知機能の低下や機能不全の兆候をつかみ、悪夢と合併する精神疾患に対する認知行動療法の実践における工夫を提言でき、非薬理的な心理学的支援の幅広い普及が可能になると考えた。

Table1 悪夢と合併疾患に関する研究の内容と方法

	児童期	思春期	青年期	成人期	老年期
事例研究			自閉症		
		パニック障害	統合失調症		
			気分障害（うつ病・躁うつ病）		
			不眠症		
			PTSD		
			自殺企図		
調査研究	自閉症傾向		強迫性症状		
	ADHD傾向			アルコール依存症	
	学習障害傾向				認知症
			抑うつ		
			不眠症状		
			自殺企図		

### 4. 研究成果

**認知症の悪夢の特徴**に関しては、事例研究のみならず、高齢期の加齢に伴う正常な認知機能の低下について、悪夢の頻度・内容に関して**青年と高齢者との比較調査研究**を行い、さらに年齢を

マッチさせた認知症の診断を受けた施設入所者と健常高齢者との比較調査研究を行い、病理的な記憶力の低下や生活環境の影響を確認した。統合失調症の悪夢の特徴に関しては、認知機能障害の反映について確認し、支援の経過とともに学会誌にて発表した。自閉症スペクトラム障害の悪夢の特徴に関しては、児童と青年を対象に、感覚モダリティや情動を伴う記憶と夢の特性の相関について確認し、調査研究と事例研究のそれぞれを学会誌にて発表した。児童の調査研究では、注意欠陥多動性障害の行動特性、および学習障害の行動特性と夢の特性の関係性についても確認した。PTSDの悪夢の特徴(事例研究)に関しては、成人の患者にイメージを媒介した認知行動療法による支援を行った結果とともに学会誌にて発表した。特発性の悪夢の特徴(事例研究)に関しては、青年のクライアントにイメージを媒介した認知行動療法による支援を行った結果とともに学会誌にて発表した。うつ病の悪夢の特徴(事例研究)に関しては、成人のクライアントに対するイメージを媒介した認知行動療法による支援の結果について学術書に執筆した。アルコール依存症者の離脱症状時の夢の特徴を、断酒期間の夢と比較した調査研究の結果を、学会誌にて発表した。強迫性障害の強迫観念(認知的症状)と強迫行為(行動的症狀)の程度と不眠と悪夢との関連性について検討した調査研究の結果について、学会誌に投稿して審査中である。

これらの研究実績から、悪夢に関する適切な心理学的支援をするためには、悪夢の特徴や合併精神疾患の有無によっても認知行動療法の技法の適用に調整の必要があることが判明した。認知機能障害の特徴を考慮して悪夢に関する認知行動療法の適用が有効であることから、薬理的治療を用いず副作用の少ない、悪夢への心理学的支援法の普及に貢献することが示唆された。また、悪夢の低減に有効な認知行動療法の技法のうちイメージを利用する方法が精神的健康を高める予防法としての利用可能性を提案した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 19件）

1. 著者名 Wang, S. & Matsuda, E.	4. 巻 66
2. 論文標題 The Effects of Stressful Life Events and Negative Emotions in Relation to the Quality of Sleep: A Comparison between Chinese and Japanese Undergraduate Students and Chinese International Students.	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Japanese Psychological Research	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jpr.12363	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 松田英子・松岡和生・岡田斉	4. 巻 19
2. 論文標題 自閉症スペクトラム障害の特性と夢の感覚および感情に関する予備的研究.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 イメージ心理学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Matsuda, E. & Yoshihara, M.	4. 巻 59
2. 論文標題 The Effect of Developmental Disorders on Sleep and Dream of Japanese Children in Special Support Classes.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Behavioral Science Research	6. 最初と最後の頁 29 36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松田英子	4. 巻 18
2. 論文標題 日本におけるコロナパンデミックドリームの実際 - 成人女性3事例の夢資料に関する質的解析 .	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 イメージ心理学研究	6. 最初と最後の頁 1 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 王尚・松田英子	4. 巻 57
2. 論文標題 中国における睡眠問題に関する医療と心理カウンセリングの現状と課題.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋大学大学院研究科紀要	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡田斉・松田英子	4. 巻 42
2. 論文標題 スマートフォンの利用は夢見に影響を与えるのか？	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文教大学人間科学研究	6. 最初と最後の頁 59-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田英子・吉原勝・川瀬洋子	4. 巻 16 (2)
2. 論文標題 児童の発達障害特性と夢の報告に関する調査研究：夢と悪夢に関する質的データの分析.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ストレスマネジメント研究	6. 最初と最後の頁 60 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋信雄・松田英子	4. 巻 16 (2)
2. 論文標題 アルコール依存症患者における断酒前後の不眠と夢の変化についての比較調査.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ストレスマネジメント研究	6. 最初と最後の頁 52 53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田英子	4. 巻 57
2. 論文標題 青年期の発達課題と夢想起の関連の検証 発達障害のある青年が語る夢の事例分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋大学社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 71-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 王尚・松田英子	4. 巻 56
2. 論文標題 異文化適応と睡眠 在日中国人留学生への半構造化面接調査による分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋大学大学院研究科紀要	6. 最初と最後の頁 37-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 夏文雨・王尚・松田英子	4. 巻 56
2. 論文標題 大学生の睡眠習慣と睡眠環境ー入眠を促進する環境調整に関する考察ー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋大学大学院研究科紀要	6. 最初と最後の頁 17-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田英子	4. 巻 15(1)
2. 論文標題 基礎とイメージをつなぐイメージ研究：夢イメージと急速眼球運動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 イメージ心理学研究	6. 最初と最後の頁 37 - 43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡田斉・松田英子	4. 巻 (40)
2. 論文標題 大学生を対象とした悪夢の内容別頻度と強度についての調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文教大学人間科学部人間科学研究	6. 最初と最後の頁 121 - 129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田英子・陸英善・安藤清志・河尚應	4. 巻 56(2)
2. 論文標題 Examination of the Reliability and Validity of the Korean Version of Ten-Item Personality Inventory (TIPI-K): Comparison among America, Germany, China, Japan and Korea.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋大学社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 71-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 王尚 松田英子	4. 巻 (16)
2. 論文標題 アジアの大学生と留学生における睡眠問題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋大学21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター 研究年報	6. 最初と最後の頁 53 - 62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田英子・川瀬洋子	4. 巻 56(2)
2. 論文標題 統合失調症と認知機能障害： 記憶想起の障害と過剰な夢想起を訴える青年の事例に基づく分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 行動科学	6. 最初と最後の頁 117 - 128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 松田英子	4. 巻 (15)
2. 論文標題 留学生の睡眠問題と心理支援	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東洋大学21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報	6. 最初と最後の頁 101-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡田斉・松田英子	4. 巻 (39)
2. 論文標題 既婚者の夢想起頻度・悪夢の頻度および苦痛度の発達的变化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文教大学人間科学部人間科学研究	6. 最初と最後の頁 139-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川瀬洋子・松田英子	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 悪夢と不眠を訴える女子高校生に対するスクールカウンセリングの事例	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ストレスマネジメント研究	6. 最初と最後の頁 32-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田斉・松田英子	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 悪夢の生起メカニズムと支援に関する心理学的研究の動向	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ストレスマネジメント研究	6. 最初と最後の頁 11-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田英子	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 不眠と悪夢に関する短期認知行動療法に関する実験的検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ストレスマネジメント研究	6. 最初と最後の頁 18-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 王尚・松田英子	4. 巻 54
2. 論文標題 中国人大学生における睡眠の質と抑うつ、不安及び人格特性との関連の検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東洋大学大学院研究科紀要	6. 最初と最後の頁 49-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 許 セイ 松田 英子	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 睡眠の不調とパーソナリティ特性 -日本人大学生と中国人留学生の比較	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ストレスマネジメント研究	6. 最初と最後の頁 23-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計36件(うち招待講演 2件/うち国際学会 8件)

1. 発表者名 松田英子・王尚・松岡和生
2. 発表標題 中国におけるコロナパンデミックドリームの実態 COVID-19感染予防のための都市封鎖が夢の特性に与える影響
3. 学会等名 第27回日本行動医学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田英子・吉原勝・川瀬洋子
2. 発表標題 児童の発達障害特性と夢の報告に関する調査研究 夢と悪夢に関する質的データの分析
3. 学会等名 日本健康心理学会第33回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 王尚・松田英子
2. 発表標題 中国における睡眠医療の現状と課題 .
3. 学会等名 日本健康心理学会第33回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松岡和生・松田英子
2. 発表標題 新型コロナ・パンデミック状況下における 日本の大学生の夢見の変容に関するWeb調査 .
3. 学会等名 日本イメージ心理学会第21回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡田斉
2. 発表標題 覚醒時と夢見で体験される感覚的イメージの生成に關与するのは背側経路なのか腹側経路なのか 日本語版DVQとVVIQ,QMI,夢想起頻度の關連性の検討 .
3. 学会等名 日本イメージ心理学会第21回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 工藤春菜・松岡 和生
2. 発表標題 VR 体験における現実感と身体性に関わる認知特性 .
3. 学会等名 日本イメージ心理学会第21回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田英子
2. 発表標題 自閉症スペクトラム障害児・者の睡眠中の夢の特徴に関する調査報告
3. 学会等名 日本心理学会84回大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田英子・松岡和生・山崎有望
2. 発表標題 日本におけるコロナウイルス・パンデミック・ドリーム 成人女性の事例報告
3. 学会等名 日本心理学会84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡田斉・松田英子
2. 発表標題 スマートフォンの利用は夢見に影響を与えるのか？
3. 学会等名 日本心理学会84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松岡和生
2. 発表標題 直観像とマッカロー効果
3. 学会等名 日本心理学会84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Eiko Matsuda, Masaru Yoshihara, & Yoko Kawase
2. 発表標題 The effect of developmental disorders on Sleep and Dream of Japanese children in special support classes.
3. 学会等名 14th International Conference on Child and Adolescent Psychopathology in University of Roehampton, London. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Eiko Matsuda & Wang Shang
2. 発表標題 Examination of the relationship between five factors of personality traits and sleep quality: The comparison among Japanese, Chinese, and Korean university students.
3. 学会等名 14th International Conference on Child and Adolescent Psychopathology in University of Roehampton, London. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Eiko Matsuda
2. 発表標題 The effect of Type A Behavior Pattern on Dreaming among Japanese university students.
3. 学会等名 7th Asian Congress of Health Psychology(ACHP2019) in University Malaysia Sabah. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Wang Shang & Eiko Matsuda
2. 発表標題 The Influence of Intercultural Adaptation and Emotion on Sleep: An Analysis of Intercultural Environment of Chinese International Students in Japan.
3. 学会等名 th Asian Congress of Health Psychology(ACHP2019) in University Malaysia Sabah. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ding Siqi, Wang Shang, & Eiko Matsuda
2. 発表標題 Impact of social support on mental health;A Study on depression of Chinese international students in Japanese Language School;
3. 学会等名 th Asian Congress of Health Psychology(ACHP2019) in University Malaysia Sabah. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 王尚・松田英子
2. 発表標題 異文化適応問題と睡眠の関連の検討 在日中国人留学生の異文化環境の現状から
3. 学会等名 日本健康心理学会第32回大会 (帝京科学大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋信雄・松田英子
2. 発表標題 アルコール依存症患者における断酒前後の不眠と夢の変化についての比較調査.
3. 学会等名 日本健康心理学会第32回大会 (帝京科学大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田英子
2. 発表標題 強迫傾向と睡眠の不調 - 不眠, 悪夢, 夢の情動, テーマおよび感覚モダリティの分析 - .
3. 学会等名 日本行動科学学会第36回ウィンターカンファレンス
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田英子・岡田斉
2. 発表標題 タイプA行動パターンと睡眠問題 不眠, 悪夢の頻度, 苦痛度および自殺企図の分析
3. 学会等名 日本健康心理学会第31回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 王尚・松田英子
2. 発表標題 睡眠の質に影響を与えるストレスフル・ライフイベント 及び気分の検討 - 日本人大学生と中国人大学生の比較 -
3. 学会等名 日本健康心理学会第31回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Eiko Matsuda
2. 発表標題 Influence of University Students Life Stressor and Sleep Disturbance on Depression : Cross-cultural survey in Japanese and Chinese undergraduates.
3. 学会等名 The 9th AAICP International conference in University Malaysia Sabah. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Lu Jingyi Eiko Matsuda
2. 発表標題 The Relationship between the Obsessive-Compulsive Tendency and the Mental Health of Japanese and Chinese Undergraduates.
3. 学会等名 The 9th AAICP International conference in University Malaysia Sabah. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田英子・岡田斉
2. 発表標題 タイプA行動パターンと夢想起 夢想起の内容別頻度, 感覚モダリティおよび情動の分析
3. 学会等名 日本パーソナリティ心理学会第27回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Eiko Matsuda
2. 発表標題 Cognitive Behavioral Therapy to cope with sleep disturbance: Japanese young adults have need of non- pharmacological treatment for improving sleep quality.
3. 学会等名 Second international conference of healthier societies fostering healthy organizations. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田英子・岡田斉・松岡和生
2. 発表標題 発達障害と夢の特徴に関する調査報告 自閉症スペクトラム障害と軽度知的障害の合併事例の分析
3. 学会等名 日本イメージ心理学会第19回大会
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 岡田斉・松田英子
2. 発表標題 大学生を対象にした悪夢の内容別頻度についての調査－苦痛度が高い悪夢の内容を探る－
3. 学会等名 日本イメージ心理学会第19回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田英子・川瀬洋子
2. 発表標題 自閉症スペクトラム障害の夢の特徴に関する調査報告： 認知特性と発達課題からの分析
3. 学会等名 日本行動科学学会第35回ウィンターカンファレンス
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田英子
2. 発表標題 留学生の睡眠問題と心理支援
3. 学会等名 第34回日本行動科学学会ウィンターカンファレンス
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田英子・岡田斉
2. 発表標題 夢想起の発達差に関する研究 高齢者・大学生・高校生の夢の頻度と内容に関する比較
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡田斉・松田英子
2. 発表標題 悪夢の苦痛度に関連する精神的要因の検討
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松田英子
2. 発表標題 悪夢生起メカニズムの認知神経科学的理解と認知行動療法による介入
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松田英子・岡田斉
2. 発表標題 睡眠の不調とBig Five Personality Traitsの関連についての予備的研究
3. 学会等名 日本パーソナリティ心理学会第26回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松田英子
2. 発表標題 高齢者の夢想起と認知機能に関する研究(2) 施設入所認知症者と健常高齢者の夢の頻度, 長さ, 内容に関する比較
3. 学会等名 日本健康心理学会第30回記念大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 王尚・松田英子
2. 発表標題 中国人大学生の睡眠の質と抑うつ，不安及び人格特性との関連
3. 学会等名 日本健康心理学会第30回記念大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡田斉・松田英子
2. 発表標題 大学生を対象にした悪夢の内容別頻度についての調査
3. 学会等名 日本イメージ心理学会第18回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松田英子・松岡和生・宮内哲・岡田斉・田辺肇・福田和彦
2. 発表標題 夢研究の新展開：夢見と悪夢の基礎的研究と臨床実践の連携 夢は「見る」ものなのか？
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 松田英子 / 安藤清志、大島尚（監修）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 誠信書房	5. 総ページ数 190
3. 書名 心理学から見た社会（Pp.164 - 178.）「社会的逆境を乗り越えるイメージの力．イメージを媒介とする心理療法のエビデンスと展開」	

1. 著者名 松岡和生 / 子安 増生、丹野 義彦、箱田 裕司 (監修)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 1002
3. 書名 有斐閣 現代心理学辞典「空想」他16項目	

1. 著者名 Tsuda, A., Tanaka, Y. & Matsuda, E. In Carducci, B.J., Nave, C.S., & Nave, C.S. (Eds.).	4. 発行年 2021年
2. 出版社 John Wiley & Sons Ltd.	5. 総ページ数 480 p
3. 書名 Locus of Control. The Wiley Encyclopedia of Personality and Individual Differences: Models and Theories.	

1. 著者名 日本健康心理学会 (編) 項目執筆 松田英子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 3
3. 書名 健康心理学事典. クオリティ・オブ・ライフ (QOL).	

1. 著者名 Asian Association of Indigenous and Cultural Psychology International Conference 2018 Proceedings, Eiko Matsuda	4. 発行年 2019年
2. 出版社 University Malaysia Sabah Press	5. 総ページ数 12
3. 書名 Influence of University Students Life Stressor and Sleep Disturbance on Depression: Cross-cultural survey in Japanese and Chinese undergraduates.	

1. 著者名 松田英子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 17
3. 書名 不眠症者への健康心理学的援助 (臨床健康心理学 島井哲志監修 9章 pp.139-155. )	

1. 著者名 松田英子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 (株)シドノス	5. 総ページ数 10
3. 書名 夢はどうやって作られるのかー記憶と睡眠障害のメカニズム ( -Synodos, Vol221, 34-43. )	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>リサーチマップ  <a href="https://researchmap.jp/read0154459">https://researchmap.jp/read0154459</a></p> <p>東洋大学大学院社会学研究科社会心理学専攻教員紹介  <a href="http://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.0bd41548d7e30f666126593fa0ca6f05.html">http://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.0bd41548d7e30f666126593fa0ca6f05.html</a></p> <p>orcidID  <a href="https://orcid.org/0000-0002-7070-3073">https://orcid.org/0000-0002-7070-3073</a></p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡田 斉  (Okada Hitoshi)  (30203996)	文教大学・人間科学部・教授    (32408)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松岡 和生  (Matsuoka Kazuo)  (50209508)	岩手大学・人文社会科学部・教授    (11201)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	川瀬 洋子  (Kawase Yoko)		
研究協力者	吉原 勝  (Yoshihara Masaru)		
研究協力者	王 尚  (Wang Shang)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関